

中国における日本企業の収益性とその決定要因について

2011年07月14日

早稲田大学アジア太平洋研究科

劉曙麗¹

要旨：

日本企業の直接投資による海外生産拠点の数から言えば中国はすでに日系企業の海外進出の最大拠点となっている。また直接投資の収益率を地域別に比較しても、米国、EUからの受取が前年を大幅に下回った一方、中国からの受取は6年連続で前年を上回り、2009年末まで日本の対外直接投資の最大の収益源となった。言い方を変えれば中国における日系企業の収益性は、日本経済にも大きな影響を与えるようになっている。しかし日系企業の中国での経営活動は、中国の現地企業にもかかわらず、中国へ進出している中華系（香港、台湾、マカオ）企業と欧米・韓国など含め外資企業からの競争に直面している。本報告は、中国の個票データベースから日本企業を選別し、独自のデータベースを構築する事により、計量的手法で、以下の課題を分析したものである。

①、日系企業の収益性は、中国における中華系・外資系と比べ、どのようなレベルになっているか、

②、日系企業の収益性は、どのような要因に決定されているのか。

③さらに、全体として分析できない生産工程別に産業限定で実証分析を行う。

実証分析から得た知見を活かし、日系企業の中国での収益性の向上にも改善法を提示してくれると思われる。特に産業別、生産工程別による細かい分析により得た結果から、日系企業がそれぞれの状況を踏まえて戦略を立てるのにも参考となるだろう。さらに日本企業の海外進出、海外生産経営をサポートする政府関連機関にも政策インプリケーションにも役に立てる研究と思われる。

¹ アジア太平洋研究科の博士課程／早稲田大学グローバルCOEプログラム、アジア地域統合フェロー